



初めの頃、A 児に話しかけてもあまり答えてくれなかったのですが、最近では私を慕ってくれ、よく自分の身の回りの話をしてくれるようになりました。「次はいつ来るの？」などと、心

待ちにしてくれていることがとても嬉しいです。

また、西原小学校の先生方には、活動を理解してもらい、様々な点でご協力いただき、大変お世話になっています。

この活動を通して、児童たちとの交流の喜びや支援の難しさ、現場の先生方の悩みなど、様々なことを感じました。グローバル化の加速する現代の日本社会において、外国人児童生徒教育の重要性は今後さらに増していくと思います。支援には継続が不可欠です。年齢を重ねていく上で、今までと違った様々な困難を乗り越えなければいけないでしょう。私にできることは微力ですが、無力じゃないと信じ、彼らのためにできることはなんでも挑戦していきたいです。

## 学生ボランティアに感謝

宇都宮市立西原小学校教諭 江部 まり子

昨年 11 月に、フィリピン人児童の A 児が私のクラスに編入してきました。最低限の日常会話は日本語でできるのですが、授業中の指示や学習内容がどの程度理解できるのか、不安なまま毎日を過ごしていました。今思い返すと、A 児の方が私の数倍不安だったことと思います。

そのような中、宇都宮大学で外国人児童生徒教育支援として学生ボランティアを派遣しているという情報を得、依頼しましたところ、早速、英語とタガログ語が堪能な岩村恵さんが毎週水曜日に来てくれることになりました。

初対面の時は緊張している様子の A 児でしたが、岩村さんの優しく温かな言葉かけに、A 児もすぐに心を開き、笑顔で学習に取り組めるようになりました。岩村さんと A 児は、言葉が通じただけでなく、心まで通っているように私には見えました。

学年末には、漢字や文章の読み取り、算数の文章題については満点近くの成績を取めることができるようになり、進んで発言できるくらい自信を持って学習に取り組めるようになりました。



た。また、保護者への対応についても、授業参観での母親との情報交換や学校からのお便りの英訳までしていただき、本当に助かりました。

今年度も引き続き、週 1 回来ていただけることになり、私も A 児も岩村さんに会えるのを毎週楽しみにしています。いつも子どもたちへの愛情と仕事への熱意をひしひしと感ずることができ、岩村さん。近い将来、素晴らしい先生になれることを期待しています。たいへんお世話になり、本当にありがとうございます。